

公共交通 メールマガジン

平成30年
10月9日発行
第61号

編集：国土交通省
総合政策局公共交通政策部



平素より、当メールマガジンをご愛読いただきありがとうございます。
今回は以下のラインナップでお送りいたします。



「公共交通フェスタ 2018」を開催しました！！

(関東運輸局)



のりたろう活動報告 「乗って！守って！公共交通利用促進キャンペーン」

(中国運輸局鳥取運輸支局)



平成30年度グリーンスローモビリティの活用検討に向けた実証調査支援事業の「実証調査地域」を5地域選定しました！

(総合政策局環境政策課)

<掲示板>

☆ 地域公共交通支援センターについて

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」について

「公共交通フェスタ 2018」を開催しました！！

(関東運輸局)

関東運輸局交通政策部では、9月5日（水）に横浜市鶴見区民文化センター サルビアホールにて「公共交通フェスタ まちの快適空間づくりから考える公共交通 2018」と題したシンポジウムを開催しました。

当局では昨年度から、公共交通の利用環境改善をテーマに、学識経験者、交通事業者、自治体職員などにご参加いただき、バスまち環境や駅まち環境の改善を考えるワークショップ等を開催してきました。本フェスタはそれらの取組の集大成として開催したもので、当日は、356名もの方にご参加いただきました。

来賓として、「和紙の里」をハブとした交通ネットワークの再構築を行った埼玉県東秩父村の足立村長からご挨拶をいただいた後、(一社)まちの魅力づくり研究の堀理事（東京大学名誉教授）及び(株)イチバンセン 一級建築士事務所の川西代表取締役（えちごトキめきリゾート雪月花などをデザイン）から、景観デザインをする上でのポイント、利用者ニーズの把握方法などについて、事例紹介を織りまぜつつ、とてもわかりやすくご講演いただきました。



「まちづくりのポイント」をわかりやすくご説明される堀理事



最後に、ご登壇頂いた皆様からご感想などを頂きました

また、本フェスタ開催地は正月の恒例行事箱根駅伝の中継地点でもあり、「鶴見中継所 たすきリレー」と題し、マイクをたすき（というかバトン？）に見立て、JR東日本（品川新駅の開発）⇒小田急電鉄（複々線化等）⇒相鉄バス（バス停改善の工夫等）⇒エムシードウコー社（広告付きバス停の現状等）⇒茨城県筑西市（モビリティマネジメント拠点「ちっくんステーション」等）の順で事例報告をしていただき、最後には、箱根の山を思いっきり飛び越えて、遠く兵庫県姫路市からお呼びした植田交通計画室長と神姫バス（株）の竹内担当課長から姫路駅北駅前広場の整備について、当時のご苦労話などを頂きました。その他、バスマガジンで絶賛連載中の写真家の柴田氏から、バス停のノスタルジックな写真の紹介、横浜カーフリーデー実行委員会と埼玉県さいたま市からカーフリーデーの取組み紹介、さらにはロビーにて、協力団体、本フェスタにご参加の交通事業者、自治体の皆様等から提供していただいたPRチラシ、ポスターなど40種以上を配付、展示して、フェスタ感を演出し、大盛況のうちに会を終えることができました。

本フェスタの開催にあたりご協力頂いた皆様には、事務局一同心から感謝いたします。また、ご参加頂いた皆様には、フェスタ当日に聞いて、見て、感じて頂いたことが、少しでも、今後の魅力あるまちづくり、公共交通の利用環境改善のお役に立ちましたら幸いです。

のりたろう活動報告

「乗って！守って！公共交通利用促進キャンペーン」

(中国運輸局鳥取運輸支局)

9月20日(木)に、倉吉駅及びイオンモール鳥取北で行われた「乗って！守って！公共交通利用促進キャンペーン」に参加しました。

このイベントは、平成30年6月に鳥取県が事務局となり県内の交通事業者や行政等で設置した「みんなが乗りたくなる公共交通利用促進協議会」を中心に、9月の1ヶ月間を公共交通利用促進強化月間と定め、公共交通等を維持・確保していくためにキャンペーンなどを実施したものです。



「交通トリピー」と「のりたろう」



来場者と写真撮影

当日は、交通事業者や自治体職員等が20人以上集まり、キャンペーンのぼりの掲出や中国運輸局で作成した公共交通利用促進パネルの設置、チラシ等の配布を行いました。さらに鳥取県からゆるキャラ“トリピー”の公共交通利用促進バージョンが、国土交通省からは公共交通利用促進キャラクター“のりたろう”が駆けつけ、一緒にPR活動を盛り上げました。

知名度では“トリピー”に負けていたものの、“のりたろう”のかわいらしいルックスとやわらかいボディは子どもから大人まで幅広く人気で、多くの方の公共交通へ興味を持っていただくきっかけになってくれたと思います。

<展示した利用促進パネル>



**平成30年度グリーンスローモビリティの活用検討に向けた
実証調査支援事業の「実証調査地域」を5地域選定しました！**
(総合政策局 環境政策課)

地域が抱える様々な交通の課題の解決と、地域での低炭素型モビリティの導入を同時に進められる「グリーンスローモビリティ（※）」の推進に向けて、地方自治体を対象に実証調査地域を募集したところ13地域からご応募を頂きました。審査の結果、以下の5地域を選定しました。今後、選定された5地域において、実証調査を行ってまいります。

提案者	事業名称
福島県いわき市	被災復興地域の経済循環促進に向けた地域交通イノベーション実証事業 【被災地中心市街地での観光客向け定期周遊モビリティ】
三重県東員町	高齢化が進む住宅団地で共助によるモビリティサービスの実現 【名古屋圏ニュータウンでの住民向けデマンド型ラストワンマイルモビリティ】
岡山県備前市	鶴海お出かけちよい乗りカート運行事業 【福祉と連携した中山間高齢者向けデマンド型ラストワンマイルモビリティ】
広島県福山市	しまち（潮待ち）モビリティ実証事業～国内随一の近世港町「鞆の浦」の暮らしとおもてなしをつむぐ～ 【住民の暮らし、観光客のおもてなし、離島のお出かけモビリティ】
熊本県天草市	低炭素型モビリティを活用した世界遺産と住環境の保全支援事業 【世界遺産集落で住民生活と共存する住民・観光向けモビリティ】



写真は車両イメージ

【参考】平成31年度予算要求について（環境省・国交省連携事業）

今年度の本調査で得られた知見を発展させ、地域でのグリーンスローモビリティの本格的な導入を推進するため、環境省と連携して、グリーンスローモビリティの車両購入費補助・導入実証事業に係る平成31年度予算要求を行っています。（要求額20億円）

※グリーンスローモビリティ…時速20km未満で公道を走ることが可能な4人乗り以上の電動モビリティ
詳細については、こちらのページをご参考ください。

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_fr_000139.html

< 掲 示 板 >

☆ 地域公共交通支援センター

公共交通政策部では、市町村をはじめとする各地域の関係者が、地域公共交通の確保・維持に取り組む際に有効に活用いただくため、全国各地における様々な先進事例（約300事例）を蓄積している「地域公共交通支援センター」を運用しております。

「地域公共交通支援センター」は、地域、人口、交通モード等により、先進事例を検索することも可能となっております。是非ご活用下さい。

<地域公共交通支援センター> <http://koutsu-shien-center.jp/index.html>

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」

公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」（以下「キャラクター」という。）は、公共交通の利用促進について、より効果的な広報・啓発を行うことを目的としております。

キャラクターの使用を希望される場合、地方運輸局交通政策部交通企画課までお問い合わせ下さい。申請手続きについてご案内致します。

なお、「地域公共交通支援センター」においても、キャラクターの申請手続き、使用方法、FAQをご案内しております。

公共交通利用促進キャラクター のりたろう



大好きな公共交通機関で働くことを夢見ていたが、ネコでは単独で乗り降りができないことから一念発起。自らが新たなハイブリッド公共交通機関に進化することで夢を実現し、現在は利用促進PRの先頭に立って活動している。

駅長を務めるなど活躍中の仲間達を同じネコとして尊敬しており、いつか会って公共交通について熱く語り合いたいと思っている。

- ・移動手段は「ネコ足歩行」
- ・自由に移動できるが、疲れてしまうので100歩ごとに休憩が必要
- ・乗車可能人数は運転士（のりたろう本人）を含めて1名のみ！

読者の皆様からのご要望や全国に共有したい情報等がございましたら、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【お問い合わせ先】

国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 石橋

〒100-8918

東京都千代田区霞が関2-1-3（中央合同庁舎3号館3階）

TEL：03-5253-8275（直通）

FAX：03-5253-1513

E-mail: koutsukeikaku_joho@mlit.go.jp

★国土交通省HP（情報発信のページ）

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html

